

# JICA中国事務所ニュース

- ★ 中国事務所ウェブサイト <http://www.jica.go.jp/china/office/index.html>
- ★ ボランティア活動 <http://j.people.com.cn/99005/index.html>
- ★ サーチナJICAページ <http://news.searchina.ne.jp/topic/032.html>
- ★ JICA中国事務所ミニブログ <http://weibo.com/u/3248071500>

2014年9月号



## 目次

### ■ トピックス

- ◎ 中国の衛生・計画生育行政改革の現場最前線  
～家庭保健技術協力プロジェクト湖北省サイト運営指導より～ …2

### ■ ニュース

- ◎ 都市廃棄物循環利用推進プロジェクト  
～各モデル都市成果発表会と第8回政策検討会の開催～ …3
- ◎ 「行政不服審査法」に関する現地セミナーの実施 …3
- ◎ 「黄土高原林業新技術推進普及プロジェクト研修会」を開催 …4
- ◎ 「環境技術情報プラザ」の効果的活用に向けた環境教育研修 …4
- ◎ 「壹基金」との連携による防災教育に関するモデル授業の実施 …5
- ◎ 中国公益慈善プロジェクト交流展示会 …5
- ◎ 中国における都市化の問題 …6
- ◎ 「第13回日中地域間交流推進セミナー」に参加 …6
- ◎ 奈良県青年友好交流団が北京高碑店下水処理場を訪問 …7
- ◎ 大連市日本人学校における国際協力に関する講義 …7

### ■ 帰任者紹介 …8

- CHINA COOL 「中華菓子の代表作-月餅」 …8

## 独立行政法人国際協力機構 中華人民共和国事務所

北京市朝陽区東三環北路5号 北京発展大廈400号室  
 郵便番号: 100004  
 電話: +86-10-6590-9250  
 FAX: +86-10-6590-9260

\*\*\*ニュースレターに関するお問い合わせは、こちらまで\*\*\*  
 E-mail : [jicacn-pr@jica.go.jp](mailto:jicacn-pr@jica.go.jp)  
 皆様からのご感想やコメントをお待ちしております。

## 中国の衛生・計画生育行政改革の現場最前線

## ～家庭保健技術協力プロジェクト湖北省サイト運営指導より～



安陸市での健康教育活動。垂れ幕には「家庭の健康のために私がお家を守る」とスローガンが掲げられていた



中国側予算で作成した教材。系統立て、ターゲット年齢ごとに作られている

#### ■家庭保健を通じた感染症予防等健康教育強化プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/project/china/008/index.html>

#### ■関連リンク

プロジェクトが運営するブログとミニブログ(中文)

<http://www.weibo.com/jiatingbaojia>

<http://blog.sina.com.cn/u/3860149732>

#### ■関連記事

「家庭保健プロジェクト」の2013年度交流会

<http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201403/02.html#a03>

「家庭保健プロジェクト」の現地研修

<http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201305/02.html#a01>

「家庭保健プロジェクト」の2012年度交流会を開催

<http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201212/01.html>

交流会を開催スタートから8ヶ月、家庭保健プロジェクトのあくなき挑戦

<http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201110/02.html>

8月18～23日、「家庭保健を通じた感染症予防等健康教育強化プロジェクト」の日中専門家チームとJICAは、プロジェクトサイトである湖北省安陸市、曾都区、京山県を訪問しました。

JICAが2010年から実施している本プロジェクトは、当時の人口・計画生育委員会が中国側のパートナーであり、同委員会が有する末端レベルにまで至る広範囲なネットワークを活用してコミュニティレベルへの予防保健にアプローチしながら、中国の5つの省・市における12ヶ所のモデルサイトでプロジェクト活動を展開してきました。

2013年3月に行われた中国国务院の組織改革によって、かつての衛生部と人口・計画生育委員会が統合し、新たに国家衛生・計画生育委員会が発足しました。全国の省・市・県の各レベルでも、進捗にばらつきはあるものの、組織統合が進められつつあります。ただ中国のような巨大な国家の場合、中央から各級の地方政府に至るまで行政組織を統合することは容易ではなく、調整に時間を要することも想定されます。人口・計画生育委員会と衛生部の統合は、旧衛生部門が有する医療提供体制や医療技術といった強みが本プロジェクトに生かされることを期待させる一方で、組織改革による活動の遅れ等、プロジェクト活動現場への影響が懸念されていました。

今回訪問した湖北省では、県レベルまで全て合併を終え、衛生・計画委員会が発足していました。訪問した3つのプロジェクトサイトではいずれも、引き続き統合後の調整を要する部分が残るものの、豊富なアプローチを用いて家庭を切り口にした保健サービスが展開されていました。その順調な展開に加え、統合に伴う旧衛生部門からの投入リソースとの調整も円滑に行われていることも分かりました。

中国政府の重要改革の一つである医療改革は2009年から始まり、基礎的公衆衛生の普及と健康増進の予防的アプローチが求められています。組織改革以前から、旧衛生部門による「基礎的公衆衛生サービスプロジェクト（以下「公衆衛生プロジェクト）」が展開されており、人的・資金的リソースが動員されてきました。実際に今回訪問したプロジェクトサイトでは、本プロジェクトと旧衛生部門の公衆衛生プロジェクトのリソースとの調整を経て、予防的アプローチを重視しながら、より効率的な保健活動の実施に向けた運営体制が構築されている様子がうかがえました。

これは「家庭保健」が、国家級大型プロジェクトである公衆衛生プロジェクトにおける「予防」の重要なコンテンツとして重視されることで、有機的な連携がはかられているものと言えます。統合によって、旧計画生育部門の事業であった本プロジェクトと旧衛生部門の事業であった公衆衛生プロジェクトが、同じ衛生・計画生育部門の事業として一体的に実施されていることを示すものでした。

今回の湖北省訪問では、統合によるシナジー効果とそれによる本プロジェクトへの追い風を感じました。プロジェクトはあと1年数ヶ月で終了しますが、旧計画生育部門の広範囲なネットワークと旧衛生部門における医療改革を通じた予防アプローチの効果的な融合を図りながら、家庭保健サービスのアプローチを中国の保健医療改革の質向上に資するサービスモデルとして位置づけるべく、モデル化・政策化に向けた動きを加速させていきたいと考えています。

(土居健市)

## 都市廃棄物循環利用推進プロジェクト

### ～各モデル都市成果発表会と第8回政策検討会の開催～



#### ■都市廃棄物循環利用推進プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/project/china/007/outline/index.html>

#### ■関連記事

都市廃棄物循環利用推進プロジェクト  
第7回政策検討会

<http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201406/02.html#03>

JICAと中国国家発展改革委員会が、2010年から4年間の予定で実施している「都市廃棄物循環利用推進プロジェクト」では、「国家レベルの政策研究」と「対象都市における廃棄物適正処理及び循環利用」という2つの成果目標を掲げています。後者については4つの都市を対象に、廃棄物管理の実態調査を実施した上で、各都市の関係者と協力しながら都市廃棄物管理ストラテジックプラン（SP）や対象廃棄物の循環利用推進にかかわるロードマップ（RM）を策定、更には、対象廃棄物の適正処理および循環利用を実際に促進するためのパイロットプロジェクト（PP）を実施しています。

本プロジェクトは来年1月に終了する予定ですが、8月下旬から9月初旬にかけて、青海省西寧市、貴州省貴陽市、山東省青島市、浙江省嘉興市の各対象都市において成果発表会を開催、また9月5日は、各対象都市の担当官が嘉興市に集まって意見交換会を行いました。これまでの各都市における活動を総括し、また施策について協議し、中央政府への提言策定に向けた取り纏め等を行い、循環利用を推進していくために必要な情報や考えを共有することができました。

9月12日には、北京市において第8回政策検討会を開催し、プロジェクトの集大成となる政策提言書（政策大綱）の取りまとめに向けた議論を行いました。国家発展改革委員会及び住宅都市建設部、商務部からは、各都市における廃棄物のマテリアルフロー及び住民意識調査等のデータに対して、これまで中国で取りまとめたことがない貴重なデータであり、大変重要な示唆があったとのコメントがありました。残り期間での今後の作業としては、対象都市における成果を国家レベルの政策提言に結び付けていくことが必要となります。中国の政策策定に活用されるよう、日本側関係者が一体となって政策提言の取りまとめを行っています。

（前島幸司）

## 「行政不服審査法」に関する現地セミナーの実施



9月11～12日、JICAと全国人民代表大会（以下「全人代」）法制工作委员会行政法室は「行政不服審査法」（行政処分に対する不服申し立て法）に関する現地セミナーを実施しました。これは、2012年から実施中の「行政訴訟法及び行政関連法プロジェクト」の活動の一環によるものです。

プロジェクトが対象とする行政訴訟法は、8月末の全人代常務委員会における第2次草案の審議とパブリックコメントの募集が行われていますが、これと密接な関係がある「行政不服審査法」についても現在改正作業が行われており、JICAはこれまでも現地セミナーや訪日研修の実施を通じてこれを支援してきました。日本の行政不服審査法も、公正性や使いやすさの向上、国民の救済手段の充実・拡大の観点から、制定後50年ぶりに見直しが行われ、再来年には新制度に移行する予定です。

今回のセミナーでは、3名の日本人専門家から、新制度の主な見直し内容を含め、日本の不服申立制度の実務における運用の現状等について紹介しました。中国側からは改正作業を行う法制工作委员会行政法室のほか、国务院法制弁公室、各行政機関法律関連部門、裁判官、大学の有識者等が出席し、盛んな質疑応答と意見交換が行われました。

（三津間由佳）

#### ■行政訴訟法及び行政関連法プロジェクト

<http://gwweb.jica.go.jp/km/ProjectView.nsf/4f3700b697729bb649256bf300087d02/3a3bcf8de467c39e492579dd0079ec7d?OpenDocument>

## 「黄土高原林業新技術推進普及プロジェクト研修会」を開催

8月11～29日、「黄土高原林業新技術推進普及プロジェクト」の活動の一環で、5つの都市（山西省太原市、寧夏自治区固原市、陝西省西安市、河南省信陽市及び内蒙古自治区オルドス市）において、国内研修会を実施しました。

### ■黄土高原林業新技術推進普及プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/china/office/activities/project/32.html>

### ■関連記事

黄土高原林業新技術推進普及プロジェクト合同調整委員会

<http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201404/02.html#02>

本プロジェクトはJICAと中国国家林業局が2010年から実施しており、これまで実施してきた黄土高原における林業分野における日中協力の成果を基礎に黄土高原各地に適した林業技術・管理方法を整理・改善・普及することを目的としています。黄土高原に広がる各省・自治区における研修会や省・自治区間を跨いだ交流会等の実施を通じて、黄土高原における植林地の保育管理体制の強化を目指し、将来的には黄土高原の生態環境の回復に寄与することが狙いです。

今回の研修は、各省・自治区の林業関係者を対象に、これまでの日本と中国の交流や黄土高原における日中林業協力の成果のほか、生態林・経済林・用材林にかかる植栽及び保育技術を紹介しました。特に、山西省における研修会では「四川省震災後森林植生復旧プロジェクト」でチーフアドバイザーを務める佐藤隆氏を講師として招聘し、林業治山に関する概論等について講義しました。今年度は、引き続き甘肅省と青海省において研修会を行う予定です。

（李飛雪）

## 「環境技術情報プラザ」の効果的活用に向けた環境教育研修



日中両国は1990年代以降、長年にわたり日中友好環境保全センターをプラットフォームとしながら環境分野での協力を推進しています。現在、日中友好環境保全センターの一角に環境技術情報プラザ（以下「プラザ」）の設置を計画しており、ここでは環境保全・環境技術に関する展示や環境解説ボランティアによる環境教育プログラム等が行われる予定です。



9月中旬、JICAは京エコロジーセンター（京都市環境保全活動センター）から専門家を派遣し、環境教育に必要な実践的なノウハウ習得に向けた研修を行いました。京エコロジーセンターは地球温暖化防止京都会議（COP3）の開催を記念して設置された施設で、長年にわたり環境教育を実践してきました。研修は、実際に日中友好環境保全センター宣伝教育センターの職員が小学生向けに環境教育の講義を行う等の実践を交えながら、また日中双方が意見交換を重ねながら進められました。

環境教育解説や人材育成については、これまでも「循環型経済推進プロジェクト」の実施を通じて、教材・プログラムの開発や、NGO・ボランティア養成のほか、全国の環境教育基地に対して、人材育成・情報提供機関として必要なソフト面の整備を行ってきました。環境教育基地事業は環境保護部、国家発展改革委員会、財政部の「国家環境監督管理能力向上第12次5カ年計画」の重要事業の一つとして取り上げられており、プラザは小中学生向けの国家級環境教育基地に対する教育・指導機関としての役割を果たすことが既に決まっています。開設後は、施設を実際に活用してより実践的な研修を行う予定であり、JICAは引き続き環境分野における協力の一環として後押しして行きます。

（前島幸司）

### ■循環型経済プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/project/china/010/index.html>

### ■京エコロジーセンター

<http://www.miyako-eco.jp/>

## 「壹基金」との連携による防災教育に関するモデル授業の実施



四川省は地震多発地域です。2008年5月12日に発生した四川大地震（汶川地震）のほか、2013年4月20日に四川省雅安市で発生した雅安地震等による甚大な被害が出ています。JICAは、四川大地震以降、4つの分野（①耐震建築技術、②被災者のこころのケア、③救助技術及び応急対応、④森林復旧）を切り口とした復興支援プロジェクトを実施し、中国における防災・減災への認識も高まってきました。

中国のNGO「壹基金」は、雅安地震発生後から、雅安市において学校における防災教育を推進しており、今回JICAはこの取り組みの技術面を支援する目的で、兵庫県から3人の防災教育分野の専門家を派遣しました。

今年8月に実施したプログラムでは、①日本人専門家による現地教師向けの講義、②日本人専門家による現地小学生向けのモデル授業、③壹基金による現地教師向けの研修、④現地教師によるモデル授業の発表等を行った上で、日中双方で意見交換を行いました。雅安市は、既に「生命と安全」に関する科目が設置されるなど、中国の他地域に比べて先進的な防災への取り組みが進められていますが、これに壹基金による協力、さらには日本人専門家による技術的支援が加わることで、雅安市の取り組みがモデルとなり、将来的には中国全土に広く普及・発展することが期待されます。

今回JICAが派遣した日本人専門家は、現役の学校教師であり、いずれも兵庫県の震災・学校支援チーム（EARTH）のメンバーとして日本の防災教育の現場の最前線で活躍しています。「EARTHは日本で唯一且つ世界で最も進んだ取り組みを行っているという責任感を持っている」、「経験をしたらまた次の機会に生かすことを考える」等、日本人教師からの生の声は、中国の教育の現場に大きな刺激となりました。（前島幸司）

### ■ 関連記事

四川大地震から6年－日中防災協力に関する最近の動向－

<http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201405/01.html>

中国市民社会との連携～NGO壹基金の学校防災プロジェクト～

<http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201404/02.html#a05>

## 中国公益慈善プロジェクト交流展示会



9月19～21日、深セン会展センターで「慈善、中国の夢にさらなる彩を」をテーマにした第三回中国公益慈善プロジェクト交流展示会（以下「展示会」）が開催されました。この催しは中国民政部、広東省、深セン市他が主催したもので、中国31省、香港、マカオ、台湾等10の国・地域から計896機関が出展、延べ16万人が訪れました。

初日に行われた「主題セミナー」では、民政部李立国部長、竇玉沛副部長、中華全国工商連合会謝経栄副主席、国務院国有資産監督管理委員会閻曉鋒秘書長、広東省鄧海光副省長、深圳市王栄書記等、多くの政府代表が挨拶・講演し、李立国部長は、公益慈善事業が中国の社会発展にますます重要な役割を果たすようになったこと高く評価しました。

JICAはこの展示会にブースを出展し、JICA事業の概要、草の根技術協力事業、医療・社会保障分野の協力、青年海外協力隊等、各種の業務を紹介しました。JICAのブースには、環境保護、CSR、高齢者・障害者支援、自閉症、こころのケア等に関する700名以上の関係者が訪れ交流しました。また9月20日には発表会場において、「JICA推奨会」を実施し、数十名のNGO代表等が来場、今年度JICAが実施する予定のCSR調査や第4回日中NGOシンポジウム等の活動概要を紹介しました。

ここ数年、中国の社会改革とソーシャル・イノベーション（中国語で「社会創新」と言う）に関する一般市民の公益事業への参加が盛んになっています。JICAはこうした潮流をとらえ、NGOや社会貢献ファンド等とともに互いの強みを活かしながら、日中共通の課題解決に向けた協力の展開を模索していきたいと考えています。（李瑾）

### ■ 関連記事

中国公益慈善プロジェクト交流展示会  
[http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201310\\_11/02.html#a08](http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201310_11/02.html#a08)

### ■ 報道等

慈善会ウェブサイト  
[http://web.cncf.org.cn/content/2014-09/19/content\\_10177742.htm](http://web.cncf.org.cn/content/2014-09/19/content_10177742.htm)

中国新聞網  
<http://finance.chinanews.com/cj/2014/09-23/6621159.shtml>

人民網  
<http://sz.people.com.cn/n/2014/09/22/c202846-22385361.html>

## 中国における都市化の問題



課題アドバイザーに関する国務院発展研究センター（DRC）林家彬巡視員（右）との署名



ADBとIPRCCIによる貧困都市セミナーの様子

近年中国では、民生向上に向けた都市化が急ピッチで進められており、2013年に53.73%であった常住人口都市化率を2020年までに60%前後引き上げる目標が掲げられています。都市化の推進、即ち上記53.73%と60%の差である6.3%の人（≒1億人（その多くは農民工とその家族））に都市戸籍を与え、都市住民と同一待遇（住宅、医療、教育、社会保障等）を与えるための制度改革が急務となっています。

JICAは、中国国内の有識者や国際協力機関との連携等を通じて、本分野における経験や情報の共有に取り組んでいます。8月28日には、中国政府の最も重要な政策シンクタンクの一つである国務院発展研究センター（DRC）において都市計画・財政を専門とする林家彬巡視員をJICA中国事務所の課題アドバイザーとして任命し、中国における都市化問題や実施現状等に関する講演会を開催しました。講演は、新型都市化の具体的な内容、特に「都市と農村の戸籍の統一」や「地方財政問題」等の問題にフォーカスしたもので、有益な情報・意見交換の機会となりました。

このほか、9月1～3日には、アジア開発銀行（ADB）と中国国際貧困中心（IPRCCI）が浙江省杭州市で開催した「貧困都市セミナー」に参加し、都市化や貧困問題をめぐる発展途上国での経験・事例等について情報・意見交換を行いました。セミナーには中国国務院貧困開発指導弁公室のほか、浙江省、貴州省、陝西省等多く地方貧困弁公室のほか、インド都市開発部、世界銀行等から約70名が参加し、「都市における貧困」をテーマに中国及び諸外国（インド、タイ等）の事例紹介が行われました。

JICAは、引き続きこのような機会を活用しながら、日本の経験や中国で実施している共同研究の成果を発信し、広く世界に知識を共有していきたいと考えています。

（張陽）

## 「第13回日中地域間交流推進セミナー」に参加



### ■報道等

貴陽市ウェブサイト  
<http://wqb.gygov.gov.cn/wqb/2522310460443721728/20140826/378430.html>

JICAは、8月20～21日に日本国自治体国際化協会（CLAIR）と中国外交部、貴陽市人民政府が日中地域間交流の推進を目的に開催した「第13回日中地域間交流推進セミナー」に出席し、「日中地域間連携促進におけるJICAの取組み」をテーマとする講演を行いました。今回のセミナーは、「イノベーションの活用と環境都市の創造」をテーマに開催され、日本の23の地方自治体関係者や、中国の34地域外事弁公室の代表者等、合計約120名の関係者が参加しました。

セミナーが開催された貴州省貴陽市では経済発展と環境保全の両立を実現する「循環型社会づくり」について先進的な取り組みが行われており、貴陽市副市長からは「環境に配慮した文明建設」に関する基調講演を通じて経済発展の優位性及び環境配慮の措置や計画が紹介されました。日本側は青森県八戸市の小林真市長から「より強いより元気なより美しい八戸」、横浜市地球温暖化対策総括本部長の野村宜彦氏から「都市の挑戦と横浜スマートシティプロジェクト」と題した講演を行い、参加した中国側の地方行政官からは、環境配慮型の都市づくりの好事例として反響が寄せられていました。JICAは、貴州省における日中協力事業のほか、中国国内でJICAの草の根技術協力事業を活用して展開された日中の自治体間連携の個別事例を紹介し、貴陽市政府副市長からは日本のODA事業を通じた貴州省の経済発展への貢献に対して謝意が表明されました。

引き続きJICAは、CLAIRや日中の姉妹都市間の取り組みとの連携可能性を探っていきたいと考えています。

（李瑾）

## 奈良県青年友好交流団が北京高碑店下水処理場を訪問



下水処理場の見学

### ■ 関連記事

日中協力：北京市下水の4割を処理する汚水処理場

<http://www.jica.go.jp/china/office/others/story/04/index.html>

■ 汚水処理場のグレードアップ改造と運営改善プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/china/office/activities/project/05.html>

JICAは事業を通じて中国の社会経済の発展を支援していますが、その成果や意義を日本社会に発信して理解促進を図ることや、また日本の若者の国際化や日中友好交流の担い手育成に対する開発教育的な取り組みも重要な活動の一つであると考えています。

9月11日、JICAは、奈良県から訪れた10名の青年友好交流団を北京市南東に位置する高碑店下水処理場に案内しました。同処理場はかつて円借款を活用して建設され、また近年は「汚水処理場のグレードアップ改造と運営改善プロジェクト」の実施を通じて汚水の高度処理に関する協力を展開してきました。

処理場職員からは、処理場整備を通じて、かつて悪臭が漂い、生物が住めなかった北京の河川が魚や野鳥が生息するまでに回復したことや、日本の技術協力を経て、今では国内の他の処理場に技術指導する役割も担う中国最先端の処理場に発展した等の説明があったほか、実際に処理場施設を見学しました。参加者が「日中友好・交流の意義について改めて考える機会となった」と感想を述べると、処理場職員からもこれまでの日本からの支援に対する感謝と共に、日中友好・交流の更なる発展への期待が述べられました。

(林憲二)

## 大連市日本人学校における国際協力に関する講義



### ■ 報道等

大連日本人学校ウェブサイト

<http://www.japanda.cn/gallerydetail.php?id=2214>

JICAは、日本人学校をはじめとする中国各地の教育機関への関係者派遣等を通じて、開発教育・国際理解教育を支援しています。9月17日、JICAは大連日本人学校の中学3年生を対象に、国際協力に関する出張講義を行いました。

世界には、紛争や貧困、環境破壊のほか、エボラ出血熱のような感染症の問題等、解決すべき様々な課題が存在しています。交通の発達に伴い、また食糧やエネルギー等の輸出入を通じて、日本と世界の相互依存関係はますます深まり、例え“地球の裏側”の出来事であっても、ひとごとであるとは言いきれません。今回は、生徒たちとともに、このような世界の現状に対して何が必要とされているのかを考えながら、日本の政府開発援助の実施機関であるJICAの役割を紹介しました。

また、今年で35周年となる中国におけるJICAの取り組みを併せて紹介し、長年にわたる日中協力事業とその成果を振り返りながら、例えばかつてはインフラ整備に対する支援が中心であったのに対して、近年では環境問題等の日中共通の課題解決に向けた協力が重視されている等、時代の要求に応じて協力内容が変化していることの意味を考えたほか、四川大地震や東日本大震災に対する日中相互の協力事例等を踏まえながら、隣国同士が協力することの意義に触れました。

大連日本人学校中学部では、「総合的な学習の時間」等を通じて、日本や中国に関して生徒各自が関心を寄せる課題について調べて学習を進めており、12月に行われる学習発表会でその成果を発表する予定です。国際協力に関連するテーマを取り上げる生徒もいると聞いています。

(高田千瑛)

長期専門家

中島 卓也

「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」

2012年9月～2014年9月

## CHINA COOL「中華菓子の代表作-月餅」



旧暦8月15日の中秋節は、春節に次ぐ重要なイベントとして現代においても根強く残っている。旧暦8月15日は暦の上では秋のちょうど真ん中にあたることから、「中秋」もしくは「仲秋」と呼ばれる。この風習がいつから始まったのかは諸説あるが、少なくとも隋・唐の時代からあることは間違いのない。秋は収穫の時期だ。収穫をもたらしてくれた神様に感謝する意味と収穫の喜びをこめてこの美しい月を拝む習慣はかなり昔からあった。秋になると、空気が澄んで、月が大変美しく見える。時代の経過に従って、この風習は宗教的な意味合いから月を鑑賞するというイベントに変化していった。



さまざまな餡が入る「月餅」は中秋節には欠かせない逸品だ。月餅は中国各地でさまざまな違いがあるが、代表的なのは蘇式と広式の2種類。蘇州、蘇北地区が発祥地といわれる蘇式は、月餅の皮がポロポロと落ちやすく、食べるのに少し苦労するかもしれないが、独特の食べ応えがある。一方、広東地区を中心に発展してきた広式は、キツネ色の皮に、ぎっしりと詰まった餡が特徴だ。最近では、アイスクリームの月餅も登場し、色々と思考錯誤している様子が見え始める。特に餡について言えば、北京等の北方地域では小豆餡にクルミや松の実などのナッツを入れたものがあったり、広式のように茹でた鹹蛋（xiándàn; シェンタン。アヒルの卵を塩水に漬けたもの）の黄身を入れたもの等がある。今年は「葎卵の月餅」や「辛い牛肉の月餅」、「漬物の月餅」等が登場して人々を驚かせていた。  
(屈維)